

社会資本総合整備計画 事後評価シート

道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた
魅力ある都心の実現

平成30年3月

北海道札幌市

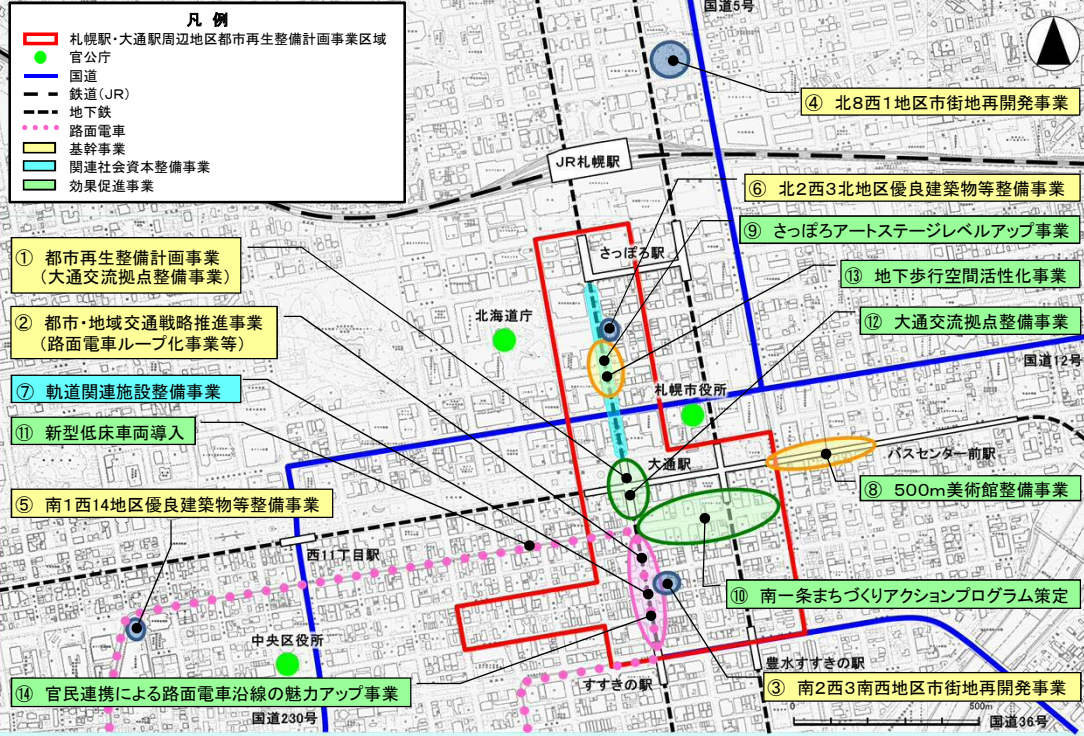
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	北海道	市町村名	札幌市	地区名	道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現									
交付期間	平成23年度～平成28年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	6,173百万円									
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	都市再生整備計画事業	地域生活基盤施設:大通交流拠点整備事業										
	当初計画から削除した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	なし	なし										
	当初計画から削除した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	都市再生整備計画事業	高質空間形成施設:札幌駅前通公共地下歩道(地下鉄さっぽろ駅)整備事業	都市再生推進事業費補助を活用することとなったため	影響なし								
	当初計画から削除した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	なし	-										
	当初計画から削除した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	都市再生整備計画事業	高次都市施設:大通交流拠点整備事業、地域創造支援事業、大通交流拠点整備事業	当初は地域生活基盤施設での整備を想定していたが、その後の整理で変更が妥当であると判断されたため	影響なし								
	当初計画から削除した事業	A基幹事業 B関連社会資本整備事業 C効果促進事業	市街地再開発事業	南2西3南西地区市街地再開発事業、北8西1地区市街地再開発事業	都市機能の集積を図り、オープンスペースを整備することで、にぎわいを創出し、公共施設整備の効果を高めると判断されたため	影響なし								
2)社会資本総合整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標1	歩行者交通量	人/12時間	87,524	H22	101,265	H27	-	141,662	○	あり	施設の移転・集約により円滑な動線が確保できたことに加え、札幌駅前通地下歩行空間等の周辺開発による相乗効果もあり、歩行者交通量が大幅に伸びた。	フォローアップ 予定時期	
	指標2	歩行者空間の魅力度	%	28.2	H22	36.1	H27	-	61.7	○	あり	明るく見通しの良い歩行空間の確保や、市民サービス・情報発信機能の拡充により、空間に魅力を感じる利用者が増加した。		
	指標3	滞留している人の数	人/12時間	150	H22	172	H27	-	635	○	あり	市民や来訪者が滞留できる魅力的な空間を整備した結果、滞留者数の増加につながった。		
	指標4	駅前通地上部の魅力度	%	52.4	H22	63.5	H27	-	75.0	○	あり	路面電車ループ化により、札幌駅前通が賑わいのある魅力的な場所と感じる人が増加した。		
	指標5	オープンスペースの面積	m ²	0	H22	130	H27	-	0	×	あり	事業者の都合により優良建築物等整備事業の要件を満たさなくなったため事業中止となり、目標が達成できなかった。		
	指標5	オープンスペースの面積	m ²	0	H22	130	H27	-	0	×	なし	○		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1													
	その他の数値指標2													
	その他の数値指標3													
	その他の数値指標3													
4)定性的な効果発現状況	事業を実施したことにより、大通交流拠点内の民間ビルの建て替えが促進された。(明治安田生命札幌大通ビル)駅前通りの路面電車沿線に「すわろうテラス」を設置したことにより、物販イベント等が開催され街のにぎわいが創出された。													
5)実施過程の評価	モニタリング	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	住民参加プロセス													
	持続的なまちづくり体制の構築													

様式2-2 地区の概要

道都札幌にふさわしい活気に満ちあふれた魅力ある都心の実現(北海道札幌市) 社会資本総合整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
<p>昨今の札幌都心地区の現状は、JRタワー開業以来の集客機能の集積により札幌駅周辺地区の活況が著しいが、魅力的で活力ある都心の実現のためには、一極集中ではなく、都心内の魅力スポットをつなぎ、回遊性を高めるとともに、都心へのアクセス性を向上させることにより、都心全体として均衡ある発展を図ることが必要である。</p> <p>平成23年3月には札幌駅周辺地区と大通駅周辺地区をつなぐ駅前通地下歩行空間が開通し、これによって地下歩行空間のネットワークが形成されることから、その結節点となる地下鉄さっぽろ駅及び大通駅コンコースにおいて、四季を通して快適に歩ける空間を創出することによって、都心の回遊性を一層高める。さらに、休憩・滞留支援機能の充実や、都市生活の豊かさを幅広く支える拠点として利便性の向上やにぎわい機能、文化芸術等の情報発信機能の充実によって、魅力ある交流空間を創出する。</p> <p>また、地上部においては、誰もが利用しやすい路面電車の整備により、都心及びその周辺へのアクセス性向上等、都市交通の円滑化を図るとともに、デザイン性に優れた軌道施設の整備やバリアフリー対応の低床車両の導入等により、都心内に新たな都市景観を創出することで都心の魅力アップに貢献する。</p> <p>これらの公共施設整備に併せて、その周辺で行われる民間再開発等に対し積極的な支援を行い、商業・業務・住宅等の都市機能の集積を図るとともに、交流や憩いの場となるオープンスペースを創出することで、にぎわいの核を創出し、公共施設整備の効果をよりいっそう高め、都心全体での均衡ある発展に寄与する。</p>	歩行者交通量	単位:人/12時間	87,524 H22	101,265 H27	141,662 H27
	歩行者空間の魅力度	単位:%	28.2 H22	36.1 H27	61.7 H27
	滞留している人の数	単位:人/12時間	150 H22	172 H27	635 H27
	駅前通地上部の魅力度	単位:%	52.4 H22	63.5 H27	75.0 H28
	オープンスペースの面積	単位:m ²	0 H22	130 H27	0 H27



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・通行の障害となる位置にあった施設を移転・集約することで円滑な歩行者動線を確保することができた。 ・滞留空間の整備や情報発信機能の拡充等により、利用者の利便性が向上し、都心の結節点にふさわしいにぎわいが創出された。 ・路面電車のループ化により、利便性、安全性やまちの魅力が向上し、当初想定を超える路面電車の利用者数増となった。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・主たるハード整備はほぼ達成されつつあり、今後はその効果を持続・発展させるための活用などソフト面の充実が課題。 ・地下広場としての魅力の維持や都心全体の回遊性の向上には、周辺商店街や駅前・大通の両まちづくり会社との連携が必要。 ・地下部に加えて地上部においても、交流拠点としてふさわしい快適な歩行者環境の整備や都市景観の改善を進めることで、交流拠点としての質を高める。 ・南北の通行空間に一部残る階段は、周辺の民間開発への取り込みを促す。 ・当該事業の実施により得られた、都心部のにぎわい創出や路面電車の利用者数増等の効果をスパイラルアップさせ、更なる魅力向上につなげるための施設整備が必要。